

【第 15 回アジア糖質科学国際会議(ACGG 2026)協賛・ご支援のお願い】

拝啓

早春の候、貴職におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より学術・文化の振興に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび私たちは、第 15 回アジア糖質科学国際会議
(Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology:ACGG 2026)を、
2026 年 10 月 3 日から 6 日までの 4 日間、産業技術総合研究所(つくば市)にて開催する
運びとなりました。

本国際会議は、アジアの糖質科学研究者による国際的な知の対話と協働を目的として、
2009 年のつくば開催(初代大会オーガナイザー:成松 久 先生)を皮切りに、これまで 14 回
にわたりアジア各国を巡回しながら、コロナ禍の時期を除きほぼ毎年継続して開催されてきた
国際会議です。例年の参加者数は約 150 名規模で推移しており、現在では 11 か国以上の研
究者が参加する国際的研究交流の場へと発展してまいりました。

掲題の第 15 回大会は、ACGG 発足から 17 年で 3 巡目を迎える節目の大会であり、これまで
の成果を基盤とした「次のフェーズ」への移行を明確に打ち出す大会として位置づけておりま
す。

また本大会は、オーストラリアおよびオセアニア地域の糖質研究者が主催する Australasian
Glycoscience Symposium(AGS)との初の本格的なジョイントミーティングとして開催
されます。これにより、今回は約 250~300 名規模の参加を想定しており、アジアとオセアニ
アを軸とした新たな国際連携の形を示す重要な機会となります。

それにより、本大会のスローガンは、

「インタラクティブ・インテグレイティブ・モア(Interactive Integrative More!)」
といたしました。

文化的・地域的・学術的多様性を尊重しながら、対話的(Interactive)な交流と、分野横断的・
地域横断的な統合(Integrative)を通じて、単なる情報共有にとどまらない、次世代に向け
た発展的な糖質科学の姿(More!)を提示することを目指しています。

特に本大会では、

- ・ 若手研究者(30 代を中心とする次世代)の国際舞台での活躍機会の拡充
- ・ 産学官連携および糖質科学の社会実装を強く意識した企画

・ アジアとオセアニアの研究者が対等な立場で議論・協働する枠組み
を重要な柱として据えております。

本大会は単一会場形式で開催されるため、参加研究者との高密度な接点が確保されます。また、産業技術総合研究所という社会実装を志向する研究拠点での開催は、これらの理念を具体的な形として示す象徴的な場になると考えております。本大会では、学術研究と産業応用をつなぐ場としての役割も重視しており、企業・研究機関の協働による新たな研究展開の可能性についても議論されることを期待しております。

つきましては、本会議の趣旨にご賛同いただき、ご協賛・ご後援・ご助成等の形でのご支援をご検討賜りたく、ここにお願い申し上げます。今後、具体的な協賛メニューや企画内容につきましては、ご関心に応じて個別にご説明の機会を頂戴できれば幸いです。

まずは略儀ながら、書中をもちましてご挨拶とご協力をお願いを申し上げます。

敬具

令和 8 年3月吉日

アジア糖質科学国際会議(ACGG)日本代表

第 15 回アジア糖質科学国際会議(ACGG 2026)大会オーガナイザー

久野 敦（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）

アジア糖質科学国際会議(ACGG)日本代表

梶原 康宏(大阪大学)

樺山 一哉(大阪大学)

第 15 回アジア糖質科学国際会議(ACGG 2026) 企業協賛のご案内(概要)

会議概要

会議名： 第 15 回アジア糖質科学国際会議 ACGG 2026

会期： 2026 年 10 月 3 日(土)～6 日(火)

会場： 産業技術総合研究所 つくば中央

開催形式： オンサイト(対面開催のみ)

使用言語： 英語

会議規模： 想定参加者 約 250～300 名

想定演題数： 口頭発表 約 30～40 題 ポスター発表 約 80～100 題

合計 約 120～140 題

		Day			
		3 (Sat)	4 (Sun)	5 (Mon)	6 (Tue)
Time	9				
	10	Jamboree	Session 1 L2, S4, C4 1:00+1:20+0:20	Session 3 L2, S4, C4	Session 4 L2, S4, C4
	11				
	12	Lunch			
	13	Registration & Opening celemony	Poster1	Poster 2	Session 5 L2
	14	Plenary 1 (40)			Closing with Jamboree
	15	iGCORE AGS special session Award =2 L2, S3	Session 2 L2, S4, C4	AIST AGS special session Plenary 2 L2, S4 0:40+1:00+1:20	
	16				
	17				
	18	Welcome reception	Invited dinner		

参加研究者： 参加予定国・地域(中国、香港、インド、日本、韓国、台湾、マレーシア、タイ、
インドネシア、シンガポール、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド)

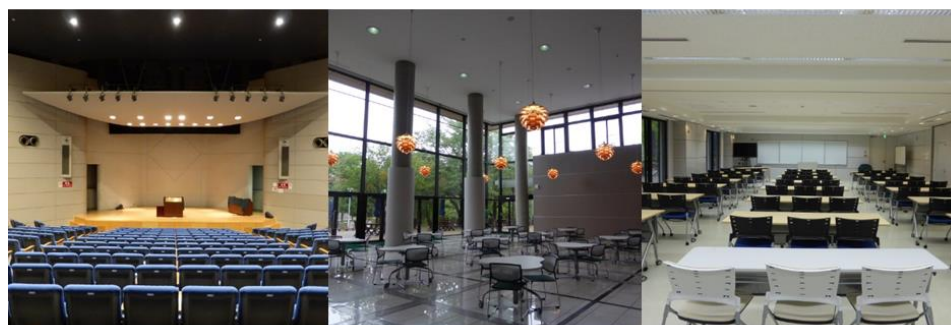
研究分野： 糖鎖生物学、糖鎖工学、糖鎖合成化学、糖鎖分析化学、糖鎖インフォマティクス、
糖鎖医工学

企業展示： ブースはメイン講堂前ホワイエおよび多目的室に設置予定であり、講堂入り口や
ポスター会場とメイン講堂を結ぶ主要動線上に配置されます。

(次ページ図をご参照ください)



講堂見取り図



講堂

ホワイエ

多目的室

(当日は机・イスを撤去して使用)

サテライト企画:第3回 Lectin Jamboree

JST ライフサイエンスデータベース統合化推進プロジェクト(代表:木下聖子(創価大))の一環として実施されている研究コミュニティ活動 Lectin Jamboree をサテライト企画として開催予定です。本企画は若手研究者を中心としたレクチン研究の国際コミュニティ形成を目的としたものであり、成果の一部は 糖質科学専門誌 Glycobiology に掲載されています。

企業協賛のメリット:

本大会ではアジア・オセアニア地域の糖質科学研究者が一堂に会します。企業展示やショートプレゼンテーションを通じて「研究者との直接交流・技術紹介・共同研究機会の創出・若手研究者とのネットワーク形成」といった機会をご提供します。

協賛メニュー: スタンダード協賛 200,000 円

- ・企業展示ブース(1 小間)
- ・企業ショートプレゼンテーション(約 5 分)
- ・大会 Web サイトへの企業ロゴ掲載
- ・会場掲示への企業ロゴ掲載
- ・要旨集(PDF)への企業ロゴ掲載
- ・大会運営支援パートナーとしての表示 募集枠 約 10~12 社

ライト協賛 100,000 円

- ・学会バッグへのチラシ封入
- ・大会 Web サイトへの企業ロゴ掲載
- ・会場入口への企業ロゴ掲載
- ・要旨集(PDF)への企業ロゴ掲載 募集枠 約 15 社

※企業展示は最大数を設定しており、枠に限りがございます。

お問い合わせ

第 15 回アジア糖質科学国際会議
ACGG 2026 大会事務局
Email: atsu-kuno@aist.go.jp

第 15 回アジア糖質科学国際会議(ACGG 2026) 団体概要および収支計画等について

1. ACGG の団体概要および運営体制

ACGG(Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology)は、アジア地域の糖質科学研究者により構成される国際学術ネットワークです。各参加国より選出された運営委員(原則 3 名、うち 1 名を国代表)によって運営委員会を構成し、会議の企画および方針決定を行っております。ACGG は法人格を有する学会組織ではなく、任意団体として運営されておりますが、開催国において大会実行委員会を設置し、適正な収支管理のもとで大会を運営しており、必要に応じて関係機関の会計規程に準じた管理を行っております。第 15 回大会は、日本代表のもと、産業技術総合研究所を中心とする実行体制により開催いたします。

2. 第 15 回大会 収支計画(概算)

本大会の総予算規模は、約 800～900 万円を見込んでおります。

【収支内訳(概算)】

収入		支出	
参加費	400万円	事前準備関係費	300万円
プロジェクト・助成金	100万円	当日運営関係費	400万円
広告/展示	400万円	総合運営・進行管理費	80万円
		交流会費	120万円

企業様からのご協賛は総予算の 30～40%程度を想定しており、1 社あたりのご支援額は総予算の 3%以下となる設計としております。特定企業への過度な依存を避け、健全かつ中立的な学術運営を維持いたします。ご協賛金は、大会運営費(設営費、ホームページ・抄録集制作費、オンライン登録システム運営費、運営人件費等)に充当され、研究内容、発表採択、学術的意思決定に影響を及ぼすものではありません。

以上